（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	かぶとむしクラブステップみのう			
○保護者評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	34名	（回答者数）	20名
○従業者評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	他事業所とは違い、高学年向けの支援プログラムを提供できている点。	実際の会社やA型・B型の内容を落としこみ、活動内容をより就労に向けた内容にしている。	活動内容の固定化マンネリ化があるため、新たな方向性での支援内容の構築を行いたい
2	高学年多いこともあり、屋外活動で遠くの場所に行きいろんな体験ができる。	他施設との併用児童生徒が多い為、他所では外出することが困難となる場所へのレクリエーションを取り組んでいる。	児童生徒が楽しいと感じる内容にフォーカスしていたが、それだけにとどめることなく、新しい社会体験、世界を知ることができる内容に変化していく。
3	高学年が多いこともあり、静かに過ごせる環境である。 また、何か新しいことや活動内容を決めるときには、実際に児童生徒に話し合いをさせた後に職員に共有という形をとっている。	話し合いの際には職員が介入しすぎないようにしている。 必要最低限のヒントのみ与え、色々な答えを出させている。 答えは一つだけでなく、多方面から見た答えを出させる。	話し合いで終わることもあるため、基本的にディベートでの意見の洗い出しを考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	高学年が集まる環境としては施設が狭いのかもしれない	個別の活動スペースは確保しているが、身体が大きいため 狭く感じてしまう	部屋の使い分けが必要となる
2	併用児童生徒と毎日来所する児童生徒で差が生まれてしまう。	個人の課題や、集団での活動に対して利用頻度の少ない 児童生徒についてはおいていかれている感を感じる利用者もいる	職員が介入し、進捗状況の引継ぎを児童生徒間で行えるように手助けが必要。後に社会に出た際に申し送り等の内容に落とし込める
3	場所が久留米市中心部から少し離れているため、利用したいという声を多く頂くが、応えきれない状況となっている。	有資格ではない職員を増やし、受け入れ範囲の見直しを行う。 1人でも多くの方が利用でき、社会に出た際に活躍できる人材を法人としても事業所としても育て、利用者の将来的な不安を解消し貢献したい。	法人内での問題提起となるため、ここでの回答は難しいが 改善策や打開策があった場合には、事業所より各関係機関への共有及び、法人としてアナウンスを行う。